

令和2年度経営発達支援事業に係る事業評価委員会の意見等

甲府商工会議所では、事業評価委員会を開催し、事業の実施状況等について報告と、改善点を踏まえた新たに認定を受けた計画に基づく令和3年度以降の取り組みについて説明した。

今後事業を実施するにあたっては、事業評価委員会での指摘事項を踏まえ、より効果ある支援に取り組む。

【委員から出された意見・質問（⇒回答）は次のとおり】

●地域の経済動向調査に関すること

- ・令和3年度の取り組みに“RESASを活用した地域の経済と動向分析情報の提供”とあるが、どのような情報が提供できるのか。また、“RESASの分析を行い年1回公表”とあるが、どのように公表するのか。（委員）

⇒地域が何で稼いでいるのか、どのような人の流れになっているのか、観光客がどこから来ているのか、その年齢層はどのようになっているのかなどが分かる。これらを小規模事業者へ情報提供することで、商品・サービスの開発や販路拡大の際の参考とするよう促していく。

事業活動にRESASを活用することは有意義だが、小規模事業者へRESAS（ビッグデータ）を理解してもらい、どのようなデータがあり、何に活用できるのかを周知する必要がある。セミナー等で、RESASでできる事・わかる事を周知し、相談時にはその内容に応じて、個々にデータを提供する方法を考えている。（事務局）

- ・“働き方改革に関する調査を実施した”とあるが、調査項目はどのようなものか。（委員）

⇒働き方改革関連法への対応状況、コロナ禍におけるテレワークなど新しい働き方への取り組み状況などについて調査した。（事務局）

●経営状況の分析に関すること

- ・令和3年度の分析件数の目標は200件と、過去の実績から見るとかなりハードルが高いと思われるが、どのように考えているのか。（委員）

⇒新たな計画を策定する際の指針で、“分析件数は経営指導員一人当たり20件程度”とのイメージが示されている。当所の経営指導員は11名のためこの数値とした。最終的には、分析した中の2割程度を経営計画策定につなげる計画である。また、補助金申請書類作成支援の際の分析も含めれば、達成可能と考えている。（事務局）

- ・巡回訪問件数が目標を大幅に下回っている。国等の施策を広める上でも巡回は非常に重要だと思う。これを増やしていくべきと思うが、どう考えているか。（委員）

⇒令和2年度までの計画では、巡回件数を目標に掲げた。また、県の小規模補助金交付要綱等でも巡回は定められている。一方、今年度から新たに始まっている計画では巡回件数は目標としていない。施策普及等には有効な手段と考えているので、指導員一人当たり月10件程度の巡回は行っていきたい。併せて、オンライン等も活用した相談にも取り組んでいきたい。（事務局）

・ 専門家の個別相談は、相談者が多いように感じるがコロナによる影響を受けての相談が多いのか。

⇒ そのように考えている。通常、経営指導員等が相談には対応しているが、専門的なアドバイスを求めるような案件は、相談会の利用を促している。
(事務局)

● 事業計画策定後の実施支援に関すること

・ 令和3年度の目標には、これまでになかった“売上増加事業者数”や“利益率3%以上増加の事業者数”など、より支援の効果を確認するようなものがみられるが、これを達成するための方策として、これまでと違うことを何か考えているのか。
(委員)

⇒ 国の指針でも支援の効果ということを求められている。先ほどの RESAS でも触れたが、当所としても、まず経営指導員等が支援に必要な情報を収集し、また、支援事例等を内部で共有する等により資質の向上を図り、支援効果を上げていきたいと考えている。(事務局)

・ 発達支援事業の結果を公表することで、商工会議所自身が外部からの評価されることにもなる。限られた人員で支援にあたるのであれば、支援先を選定することも方法の一つだが、どう考えるか。(委員)

⇒ 例えば“経営状況の分析は経営指導員一人当たり年間20件程度”のイメージが示されているが、支援対象者を絞り込んだ場合、これを達成することは難しい。広く支援を行う中で、支援効果が出るよう努めていく。(事務局)

● 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

・ Koo-fu 商品販売額が年々目標から離れているが、その要因をどう考えているか。
(委員)

⇒ この数字は、百貨店での催事等でのものである。他に各社独自のルートで既存商品とともに販売しており、この金額は把握していない。Koo-fu を立ち上げた当時と経済状況も変わってきており、高価格帯の Koo-fu は産地ブランドを形成するための象徴的なものへとなりつつある。代わって SIMPRICH を開発し WEB サイトを立ち上げネット販売するなど、販路拡大を支援している。(事務局)

・ Koo-fu に関して令和3年度の取り組みとして、“商品開発とブランド確立のための商品開発”とあるが、これまでの計画と同様に進めていくのか。(委員)

⇒ これまでのワークショップや商品開発を通しての蓄積を生かしながら、Koo-fu はもとより、Koo-fu ウェディング、SIMPRICH などについて継続した取り組みを、山梨県水晶宝飾協同組合と連携して行っていく。(事務局)

・ 風林火山ビジネスネットでは、具体的にどのようにビジネスマッチングが行われているのか。(委員)

⇒ 開設当時は多くの製造業の企業を中心に情報を掲載していたことから、受発注などに役立ってきたが、現時点では予算等の制約もあり、余り積極的な活動はできていない。これに関する問い合わせもあることから、サイトに掲載してあることによる取引も行われていると考えている。(事務局)

● 地域経済の活性化に資する取組

・今年度は全国まちゼミがあるが、これへの対応はどうなっているのか。また、中心市街地活性化に関連して、地元資本のデパートと連携した活性化の取り組みについても、今後の方向性を聞きたい。（委員）

⇒まちゼミは今年9月の全国的で一斉に開催されるものに参加する。一過性のイベントよりも、個店へ来店を促すためには非常に有効な手段と考えており、今後も積極的に取り組んでいく。地元資本の百貨店はもとより甲府駅周辺関係者も含めて、エリアマネジメントについても協議し、中心市街地の活性化を図りたいと考えている。（事務局）

・令和3年度の取り組みに“広域観光連盟（上田商工会議所、上越商工会議所）による観光客の誘客事業”とあるが、なぜこれら地域と連携するのか。（委員）

⇒当初は、上田（真田家）と上越（上杉家）との戦国武将のつながりで、2者で事業を行っていた。これを広げた事業を行いたいと当所にも話があり、当時武田家が納めていた甲府を加え、3者で連携した事業を行うことになった。2年度も日本商工会議所の主催する展示会などに共同で出展するなどしている。（事務局）

●経営指導員等の資質向上に関すること

・“OJTで若手職員の資質向上を図った”とあるが、具体的にはどのような状況か（委員）

⇒昨年度は補助金申請に関する相談が多数寄せられた。従来は補助金の対象にはならなかった接待を伴う飲食店などからの相談も多かった。多くの業種のようなケースについて、必要に応じてベテラン職員がアドバイスできる体制を取り相談にあたった。また、特異なケースは打合せで情報を共有するなどし、相互に資質の向上に努めている。（事務局）

【事業評価委員会の開催状況】

日時 令和3年8月4日（水）14：00～16：00

場所 甲府商工会議所4階 402会議室

出席者 評価委員（2名、委員長：丸山氏）

①マーケティングコミュニケーション研究所

中小企業診断士 丸山孝雄 氏

②山梨県産業労働部産業政策課 産業戦略企画監 小野博隆 氏

事務局（3名）

①甲府商工会議所 理事・事務局長 越石 寛

② 〃 中小企業相談所長 中沢幸春

③ 〃 中小企業相談所 経営支援課長 志村 修

※山梨学院大学経営学部 教授 今井久氏も委員として出席予定だったが、体調不良のため急遽欠席となった。